

「人にやる気・村に活気・地域づくり」研修旅行 PART 3

兵庫県豊岡市研修旅行 報告書

松本大学地域総合研究センター
研究員 岩 原 正 典

地域づくりの先進地で指導的役割を果たしているキーパーソンの話を聞き、後日現地を訪ねて地域づくりの実際に学ぶ、「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」は今年で三年目になります。

今回は兵庫県豊岡市出石町の街づくりと日高町阿瀬溪谷で「山女料理 阿瀬」を経営している女性達に学ぶことにして、6月の講演会と9月の研修旅行を行いました。

下記に研修旅行の概要を報告します。

記

開催日：平成17年9月28～29日

目的地：兵庫県豊岡市出石町・但東町・日高町阿瀬

（出石町は但馬の小京都といわれる旧い町並みと出石焼、「皿盛りそば」で知られる。但東町は宿泊場所。日高町阿瀬は「山女料理 阿瀬」がある溪谷。）

参加者：31名（内訳 外部参加者17名、学生8名、地域総合研究センター等6名）

（外部参加者は松本、長野松代、安曇野、飯田・下伊那で生き生きと活躍している人たち。）

インストラクター：松本大学地域総合研究センター 玉井袈裟男 研究員

宿 舎：但東自然ふれあいセンター「やまびこ」

（兵庫県豊岡市但東町。但東シルク温泉館が隣接。）

交 通：松本大学バス

学習内容

《出石町にて》

* 人口約1万人の城下町。城下町の風情と出石焼等民芸品、出石皿そばで年間80万人の観光客を集めている。

* 旧い町並みと観光ガイドさんのガイド振り。

城下町特有の碁盤の目のような通りに町屋風の木造建物が連なる。「プレハブ建物や電柱が目につかなかった。」（参加者の一人）

観光ガイドの堀川妙子さんは、通常2時間かかる散策コースを独特の口調でユーモアを交え私達を楽しませながら1時間で案内してくれた。時々立ち止まりながらの説明には、出石の歴史、出石輩出の政治・文化の先駆者、城下町四季それぞれの風情が漏れなく含まれていた。沢庵和尚、桂小五郎潜居跡、出石藩仙石騒動などの話も。

観光資源に恵まれているとはいえない小さな街が、観光客を招いているのは観光ガイドさんの力が大きい。観光資源に恵まれている信州では、名所・旧跡を元教員の案内人が難しい顔をして案内してくれる所が多い。学会の視察ならまだしも、観光客は楽しくない筈である。信

州観光が大いに学ばなければならない点であると参加者一同の感想。

但し、旧い町並み散策の間、私達はベテランガイドさんの名ガイド振りに幻惑されて気づかなかったが、急かされながら遅れ遅れ付いてきた学生達は、道路の清掃が行き届いていなかったとの感想を漏らしていた。学生達の冷静な目に感服。

* 出石皿そば

出石城主仙石政明が1706年に信州上田から国替えになった際、そば職人を伴って来たのが出石そばの始まりであると言われているが、「出石まちづくり」の目玉の一つとして、出石焼の皿に盛った手打ちそばを供する店が50軒ある。

小皿5枚で一人前、山芋のとろろと生卵を加えたそばつゆにたっぷり浸けて食べるのが出石流とのことで食したが、そばそのものはあまり美味しくなかったというのが、信州のそば通の人たちの評。玉井先生の評点78点。

《但東自然ふれあいセンター「やまびこ」にて》

* 隣接のシルク温泉館で入浴。会席料理の夕食を楽しんだ後、各部屋で学習会？玉井部屋では13時頃まで当日の感想など話し合う。

* 気配り不足が残念

① 冬用の寝具が用意されたので暑くて眠れなかった。窓を開けて寝る。

玉井先生曰く「秋が省略されてしまった。」

折角各人の枕に、コウノトリになぞらえた折り鶴と俳句を添えた挨拶文が添えられており好感を抱いたのに惜しいことであった。

② シルク温泉は肌になめらかな重曹泉で気持ち良かったが、洗い場のシャワーが使いにくく、隣の人のシャワーの飛沫をたっぷり浴びせられた。

また、入浴客が着替え中に脱衣場の掃除が始まった。

(これらの気配り不足については玉井先生が書状にて注意を喚起。)

《兵庫県立コウノトリの郷公園にて》

* 木の上に巣ごもりするのはコウノトリである。当地ではコウノトリを鶴と呼ぶ。

* 先日9月24日に、自然放鳥された5羽のコウノトリのうち1羽が公開ケージに戻ってきていた。コウノトリが日本の空を自然に舞う環境を取り戻すのは容易なことではない。

《「山女料理 阿瀬」にて》

* 日高町金谷阿瀬溪谷にあるこじんまりとした料理店。食生活改善活動をしていた人達が、一人二人と現金収入を求めて外に働きに出るようになったが、家を空けられない人達は毎日「暗い感情」を抱きながら、黙々と畑仕事をしていた。

そんな時、一人の女性が同じような境遇の女性達に声をかけて「金谷生活改善実行グループ」を結成し、調理師免許を取得し、家族や周囲の人達の理解と協力を得て、昭和49年9月に「山女と山菜料理」の店を開業したということである。

当初は六畳三間の小さな料理店であったが、「お出で頂いたお客さんが喜んで下さることが私達の喜びである。」と言う気持ちとそのための工夫と努力で、お客がお客を呼び、今では二階建ての料理店になっている。

それを実現したのが中西禮子さんをリーダーとする山村の五人の女性達である。

私達は六月の講演会で中西さんの話に感動し、現地で体験学習しようと今回の学習旅行となったのである。

* 「山女料理 阿瀬」は阿瀬溪谷の流れに面して建てられた純和風の建物で、囲炉裏を設けた6畳の部屋が十一あるとのことであるが、案内役の森正氏を含めて31名の私達を間仕切りの襖を外して迎えてくれた。

囲炉裏を囲んだ私達は、順序よく間合いを計って出される料理を満足しながら味わった。出さ

れた料理は山女と周辺の野山で採れる山菜を中心にして22品あった。

山女料理だけでも5品あったが、塩焼きはお客自身が囲炉裏の炭火で焼いて食べるという趣向で、お客は焼きたての山女を味わうことが出来、厨房では次の料理を整えることが出来、お客を手持ち無沙汰にさせない工夫である。

手作りの器に盛られた一品一品の料理は少量であったが、食材の品定めをしながら食べ進むうちに、いつの間にかすっかり満腹になってしまった。おわりに登場した山菜ごはんとおはぎは持ち帰り用の器に入れてお土産としてもらった。これは恐らく、私達の帰りの道中を慮っての、中西さん達の配慮であったと思う。

《車中にて》

* 今回の研修ツアーにおいても、交通手段として松本大学のバスを利用して貰ったが、「このバスには、各地において様々な立場で地域づくりに関わっている人達が乗り合わせているので、一つの風土塾と考えて車内学習をしながら旅をしましょう。」との玉井インストラクターの提案により往復14時間の車内学習が行われた。

(往路)

参加者全員の自己紹介の後、通過地域で活躍している人びとの紹介が玉井インストラクターからあった。例えば、辰野町の花作り名人の吉江さんの話、駒ヶ根市で新しく免許を受けるのは無理だろうと言われながらワイン醸造所を造った人の話など。目的地が近くなると、訪問先である出石町・但東町・日高町阿瀬の紹介や但馬牛・丹波の黒豆とボタン鍋・養父の蛍の里と蛍祭り・但東町の丹後縮緬等々止まるところを知らず、数々のエピソードを交えユーモアたっぷりの語り口は行程7時間を長く感じさせないレクチャーであった。

(復路)

参加者全員が 今回の研修ツアーで学んだこと・感じたことを語り合う。

信州には自然・景観・歴史・人物・生活文化など人々を惹きつける魅力が沢山あるがそれを活かした地域づくりはまだ不十分。やらなければならない事は沢山あるのではないかという意見が多かった。

研修旅行を終えて

今回の研修旅行においても、「地域づくりの核」となるのは「人」であるということを強く感じた。自分の街の魅力を一生懸命に謳い上げた「出石町のガイドさん」。名の知れた特産品があるわけでもなく、交通の便が悪い山間地で、自分達の人生を楽しくしようと「山女料理<阿瀬>」を開店し、多くの人達を呼び寄せている山村の女性達。

研修旅行の参加者達は彼女達の姿に触発されて、これからの活動についてやる気を披瀝しあっていた。

「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」が、各地で地域づくりに関わっている人びとの「やる気」を掻き立て、手をつなぎ、その輪を拡げて行くことが出来れば、松本大学が目指すところの「地域を幸せに出来る人づくり」の一翼を担うことになると考えている。